

早春の脊振山

3月下旬、脊振山のふもとに春が生まれています。

脊振山地の尾根、標高およそ700メートルあたりまで登ってきました。

山はまだまだ寒い冬の季節の中にあります。植物は冬の出口を探しているようです。

標高780メートルの鬼ヶ鼻付近。黄色い花が咲いているのを見つけました。マンサクの花です。

山の中で一番先に春を感じたのでしょうか。ちぢれた糸のような黄色い花を咲かせています。

どうしてマンサクなのかというのがよくいわれますが、まず咲くからマンサクだというふうに言う人もいますが、漢字で書くと豊年万作の万作になぜかなっているんですね。

それはよく見てみますと、あの4枚の花びら、少しねじれた花びらが、もみ殻の中に米が入っていない、しいら、しいなとも言いますがそれによく似ているんです。で、このしいら花というのは凶作のことを意味しています。したがってこの花のことを凶作花とも言われています。

不吉な凶作花ともいうマンサクです。

凶作花をその反対の万作花に置き換えて、毎年万作であつたらいいなというみんなの願いがその言葉に表れているんですね。これから毎年、日本が豊年万作であつてほしいと思います。

脊振山地の東側、標高1055メートルの脊振山頂あたりは、冬に閉じ込められているようです。

雪の残る斜面に、珍しい花が咲いていました。

残雪の中から顔をのぞかせた春です。土の中に蓄えられていた花のエネルギーが、春の光に応えたのです。

雪の解けた斜面では、ツクシショウジョウバカマの花が咲き始めています。花は開花とともに光を求めるように、茎を伸ばしました。

日の光が強くなった日、脊振山頂の池ではイモリが動き出しました。

山道の傍らには、スミレの花です。日差しが木の葉にさえぎられることなく降り注いで、花を咲かせました。葉が分裂しているのが特徴のエイザンスミレ。

タチツボスミレ。初々しい季節の乙女たちです。

寒さの残る山の頂から下りてくると、春が待ち構えていました。

クスノキの仲間の黄色い花たちが咲いています。

シロモジの花は、ボールのように丸く咲いています。花が終わると今度は葉の芽が開くのです。

オオカメノキは葉の芽が先に開きました。花のつぼみも、もう準備万端のようです。

オトコヨウゾメ、これも葉のほうに先に開きました。

タムシバは、葉よりも先に花を咲かせました。
ヤマザクラはやわらかい葉と同時に花を開きました。
ふもとの田んぼでは、土を起こす農作業が始まりました。
暖かい季節が、脊振山地に広がっていきます。
(ずーっと大切にしたいね！)